

「治療に関わることの重要性」
～私が考える歯科技工士の役割～

中村悠介

補綴修復治療において、咬合再構成、欠損補綴、審美修復など症例より咀嚼、嚥下、発音を健全に行える口腔内を維持し、患者満足度や QOL 向上に貢献するためには、コ・デンタルスタッフの一員として補綴装置を製作する技工士の立場から、診査と診断、治療計画に関わる必要がある。得られた情報と担当医とのコミュニケーションから治療ゴールを共有し、治療計画への参加、治療途中の再評価においても状況を把握して提案する事で、最終補綴製作時の難易度緩和につながるだけでなく、治療結果に対しても差がでる。また日々の臨床においては上記の様な症例のみでは無いことも当然である。しかし、それ故に何が重要か症例を含め、私の考える歯科技工士の役割を紹介する。

インプラントおよび天然歯支台が併用可能なオーバーデンチャーの臨床応用

高瀬 直

インプラントと天然歯支台の双方を、補綴装置において一次連結することは、天然歯の生理的動揺にインプラント体が揺り動かされ、インテグレーションへの破壊をもたらすとされ通常避けられている。

これは現在のインプラント補綴学において周知の事実である。

ただし、歯牙負担のみならず粘膜負担をも活用し、上部構造で二次連結を行うオーバーデンチャーにおいては、長期的臨床データも存在し、この限りではない。

天然歯とインプラントの連結可能性が、補綴装置設計にあたって選択肢の増加に寄与することは論を待たない。

とりわけ「飛び石」状態の残存歯を一挙活用し、インプラントと複合する可撤式補綴装置の提案は、清掃性及び歯牙保全に対し高い優位性を示唆する。

当講演では支えとなる歯に三重構造の維持装置を応用したオーバーデンチャーを主題とし、その臨床術式並びに長期予後症例を詳説する。